第 4 講　律令体制の衰退
PART5 浄土信仰と平安中期・後期の文化

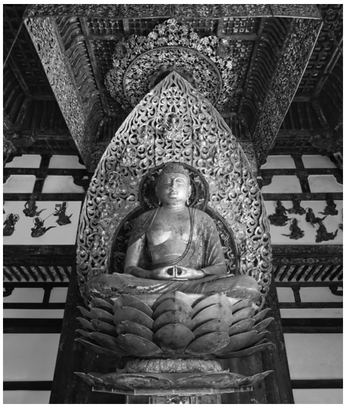
Chapter 1　浄土信仰の隆盛

目標
浄土教が隆盛するきっかけとなった思想について知ろう。
源信と空也の布教対象の違いについて知ろう。

1　末法思想と浄土信仰

六波羅蜜寺空也上人像

①天台宗・真言宗の隆盛
鎮護国家・現世利益のための加持祈禱が，皇族・貴族の間で流行。
※仏教の浸透は女性観にも影響を与え（罪深い・不浄など），
尼寺が消えていく一方で女人結界が増えていった。
②神仏習合の進展
仏を本体とし，神は仏の仮の姿＝権現とする**本地垂迹説**が浸透。
③**浄土教〔浄土信仰〕**の隆盛
A　思想
阿弥陀如来に対する信仰。
念仏「〔1　　　　　　〕」を唱え，
来世に極楽浄土に往生することを願う。
B　背景
盗賊・戦乱・疫病・災害など社会不安の増大，
寄進地系荘園の集積など大寺院の世俗化，
〔2　　　　　　〕の流行。
※釈迦入滅後，1000 年ずつの正法・像法を経て，
日本では 1052〔永承 7〕年から
末法に突入すると考えられていた。


平等院鳳凰堂阿弥陀如来像

※国家の仏教統制や既成の宗派・教団にとらわれない民間の布教者を**聖**という。
④布教
A　〔3　　　　〕**〔市聖〕**（10 世紀半ば）
諸国を巡歴後，京の市などで**一般民衆に布教**。西光寺（のちの六波羅蜜寺）を創建。

B 〔4 　　　　〕〔**恵心僧都**〕(10 世紀後半)

『〔5 　　　　　　　　〕』を著して皇族・貴族への浄土教普及を促し，

持ち込まれた宋でも高い評価を得た。

C **往生伝**

念仏の功徳で往生した人の伝記を集める。『**日本往生極楽記**』(**慶滋保胤**)など。

D **経塚**の流行

法華経などの経典を書写し，**経筒**に納め地中に埋める。

※藤原道長が埋納した，吉野（大和国）の金峯山経塚などが有名。

2 仏教の広まりと仏教美術

平安時代中期～後期は，政治の腐敗や社会不安の高まりの中で，

神仏習合・末法思想・浄土教が流行し，芸術に多大な影響を与えた。

①建築

藤原道長〔御堂関白〕が建立した法成寺〔無量寿院〕阿弥陀堂は，焼失により現存せず。

A 醍醐寺五重塔

B 〔6 　　　　　　　　　　　〕→藤原頼通〔宇治関白〕が建立

C 法界寺阿弥陀堂

②彫刻

仏所において**寄木造**で阿弥陀如来像を大量生産し，

浄土教の流行を背景とする需要に応えた。

A **平等院鳳凰堂阿弥陀如来像**→〔7 　　　　〕が制作

B 法界寺阿弥陀如来像

③絵画

往生する人を迎えるために阿弥陀如来が来臨する「来迎図」の制作が流行。

※〔8 　　　　　　　　　　　　　〕(**紀伊国**)など。

まとめ

平安時代中期～後期に社会不安が広がり，

末法思想が知られていく中で，浄土教は隆盛した。

10 世紀，空也は一般民衆に，源信は皇族・貴族に浄土教を広めた。

Chapter２　国風文化

目標
国風文化の最大の特色を知ろう。
平安時代中期～後期に女流文学が流行したのはなぜだろう？

1　国風美術

平安時代中・後期の〔1　　　　　〕**文化**は，平安京の皇族・摂関家を中心とする高度な貴族文化で，**大陸文化を十分に吸収・消化した日本独自のもの**となっている。

①絵画
日本の風物を題材とする〔2　　　　　〕が発達し，巨勢金岡らが活躍。

②書道
従来の唐風に対し和様が発達。**小野道風**（『屛風土代』），**藤原佐理**（『離洛帖』），**藤原行成**（『白氏詩巻』）の３名手を〔3　　　　　〕〔三跡〕と呼ぶ。

③工芸→輸出品として漆器が珍重される
〔4　　　　　〕・**螺鈿**などの技法が日本独自の発達を遂げる。

花札の雨の 20 点札（小野道風）

2　貴族の生活と国文学の発達

国風文化は，優雅で洗練された繊細・優美な貴族文化で，
日本人の人情・嗜好や日本の風土に合うように工夫されている。
※公式文書には和風の漢文が書かれたが，**仮名文字の発達を前提に国文学も発展**した。

①社会生活
A　通過儀礼
10～16 歳くらいで男子は**元服**，女子は**裳着**の式を挙げ，成人として扱われた。
B　年中行事の発達→叙位・除目・賀茂祭・七夕・相撲節・大祓など
先例や儀式に精通することが教養とされたので，日記や儀式書が盛んに著された。
※日記は『**御堂関白記**』（**藤原道長**），『〔5　　　　　〕』（**藤原実資**）など。
儀式書は『西宮記』（源高明），『北山抄』（藤原公任）など。

②日常生活
A　衣→唐風から和風に変化
貴族の男性の正装は〔6　　　　　〕・**衣冠**，平服は直衣・狩衣，
女性の正装は**女房装束**〔十二単〕，平服は小袿に袴だった。

武士や庶民は直垂・水干などを着用した。

B　食→比較的簡素

強飯と乾物を中心に，朝夕の２食。

C　住

貴族の多くは檜皮葺・白木造で左京に多い〔7　　　　　　〕の屋敷に居住。

民衆は掘立柱住居や，地方ではまだ竪穴住居に暮らす者もいた。

D　娯楽

近郊への寺社参詣のほか，**蹴鞠**・碁・双六・歌合・貝合・闘鶏・放鷹など。

③精神生活

運命や吉凶を気にかけ，祈禱により災厄を避けて福を招くことに努めた。

陰陽五行説に基づく〔8　　　　　　〕の影響で迷信が流行，生活は具注暦に縛られ，

物忌と称し引きこもり慎んだり，凶の方角を避け**方違**を行ったりした。

④詩歌→和歌が漢詩と並ぶ地位を確立

A　〔9　　　　　　〕（905 年，**醍醐天皇**）

万葉集以降の約 1100 首を収める**初の勅撰和歌集**で，八代集の初め。

繊細で技巧的な古今調〔たをやめぶり〕。

※**紀貫之**・紀友則・凡河内躬恒・壬生忠岑が編纂。紀貫之の仮名序は最古の歌論。

B　和漢朗詠集

藤原公任が編纂した，朗詠に適した和漢の詩歌集。

⑤物語

竹取物語（伝奇物語），**伊勢物語**（歌物語）→宇津保物語・落窪物語（伝奇物語）

→〔10　　　　　　〕（物語文学の集大成，中宮彰子に仕えた**紫式部**）

⑥日記文学

〔11　　　　　　〕**（紀貫之）**，**蜻蛉日記（藤原道綱母）**

→和泉式部日記（和泉式部），紫式部日記（紫式部）→**更級日記（菅原孝標女）**など。

⑦随筆

〔12　　　　　　〕（中宮定子に仕えた**清少納言**）など。

⑧百科事典

倭名類聚抄〔倭名抄〕（源順）

まとめ

国風文化は，大陸文化を日本風に大きくアレンジしたものである。

仮名文字の発達と摂関政治に伴う後宮の充実が，女流文学を発達させた。

第 4 講　PART 5　確認問題

1　浄土教〔浄土信仰〕で信仰の対象となったのはどれか。

①　大日如来　　②　阿弥陀如来
③　観音菩薩　　④　釈迦如来

2　諸国を巡歴後，京の市などで一般民衆に布教し，市聖と呼ばれたのはだれか。

①　一遍　　②　源信
③　法然　　④　空也

3　『日本往生極楽記』の作者はだれか。

①　慶滋保胤　　②　源信
③　藤原頼通　　④　空也

4　平等院鳳凰堂阿弥陀如来像を制作したのはだれか。

①　鞍作鳥　　②　康弁
③　快慶　　④　定朝

5　和様書道の三蹟に**あてはまらないの**はだれか。

①　藤原佐理　　②　藤原行成
③　橘逸勢　　④　小野道風

6 『小右記』と呼ばれる日記を著したのはだれか。

① 藤原実資　② 藤原道長
③ 藤原公任　④ 源高明

7 初の勅撰和歌集である『古今和歌集』の編纂を命じた天皇はだれか。

① 醍醐天皇　② 嵯峨天皇
③ 平城天皇　④ 淳和天皇

8 菅原孝標女が著した日記はどれか。

① 蜻蛉日記　② 土佐日記
③ 更級日記　④ 和泉式部日記

第 4 講　PART5　確認問題 解答

1 解答：②　**浄土教〔浄土信仰〕**は，**念仏**である「**南無阿弥陀仏**」を唱え，来世に極楽浄土に往生することを願う教えである。

2 解答：④　**空也**は，西光寺（のちの六波羅蜜寺）を創建した。

3 解答：①　『**日本往生極楽記**』は，念仏の功徳で往生した人の伝記を集めた**往生伝**の一つ。②の**源信〔恵心僧都〕**は『**往生要集**』を著した。

4 解答：④　**定朝**は**平等院鳳凰堂阿弥陀如来像**のほか，法成寺や興福寺の仏像も**寄木造**の手法を用いて制作した。

5 解答：③　**三蹟〔三跡〕**は，**小野道風**，**藤原佐理**，**藤原行成**の３名手。従来の唐風書道に対し，国風文化では和様書道が発達した。③の橘逸勢は弘仁・貞観期の三筆の一人である。

6 解答：①　②の藤原道長は『**御堂関白記**』を著した。③の藤原公任は儀式書の『北山抄』，④の源高明は儀式書の『西宮記』を著した。

7 解答：①　**古今和歌集**は，万葉集以降の約 1100 首を収めた初の勅撰和歌集で，八代集の初めである。

8 解答：③　①の**蜻蛉日記**は藤原道綱の母，②の**土佐日記**は**紀貫之**，④の和泉式部日記は和泉式部が著した。